

広報広聴委員会行政視察報告書

1 視察期間

令和7年8月20日から8月21日まで 2日間

2 視察都市

(1) 神奈川県足柄上郡開成町

(2) 神奈川県相模原市

3 参加者

芦川和美委員長、鈴木弥栄子副委員長、永井新次委員、本間昭男委員、江塚 学委員、
鳥居節夫委員、根津康広委員

随行者 大村至広主任

4 視察事項

(1) 市町の概況について

(2) 広報広聴の取組について

5 考察

次のとおり

I 開成町 人口：18,714 人・面積：6.55 km²（令和7年8月1日現在）

1 広報広聴の取組について

（1）概要

開成町議会では、広報分科会 6 人、広聴分科会 6 人の構成で、12 人の議員全員が広報広聴常任委員会の委員として広報広聴活動に取り組んでいる。議会だよりの編集会議や行政視察の受入について議員が主体となって進めている。

議会のホームページは町のホームページから独立しており、トップページを毎月更新し、一般質問の各議員のコメントや字幕付きの動画を掲載し、閲覧者の目を引く工夫が凝らされている。議会だよりはレイアウト、議員の写真、字体やキャッチコピーなど、毎号変化を付けた紙面構成となっている。

その他、中学生以上を対象とした議場の開放や小学校への出前授業、地区へ出向いての意見交換会、インターンシップ生の受入れなどの取組を行っている。

（2）考察

開成町議会が広報改革に成功している要因としては、12 人すべての議員が広報広聴に関わり、全員がフットワークよく地域に溶け込んでいる点、そして、より良くするためにチャレンジ精神と見直す勇気を持ち合わせていることだと考える。

広報改革の柱として「読む」から「見る・魅せる」ものへと進化させることについて、まず議会だよりは「手に取り、1 ページめくってもらうこと」に注力し、毎号のデザインや構成に変化をつけて発行している。WEB サイトは議会独自のものを開設し、デザインやコンテンツを改良、多様な動画を取り入れ、こちらもまずは「見てもらう」ことに重きを置いている。より良いものを作り住民の理解や関心を得ようと常に努力していることに尊敬の念を抱いた。

議会の広報を広報紙と WEB サイトの両輪で推進していることは学ぶ点が多い。当議会としては、まず現在発行している「いわた羅針盤」や議会ホームページの見やすさ、分かりやすさ、タイムリーな情報発信となっているかなど、市民の評価についてアンケートや聴き取りなどの実態調査をすることが必要だと考える。市民の反応を聞くことにより、改善していくことができる。

委員会活動や一般質問の紹介動画は、タブレットにある「iMovie」を駆使し、議員同士、また事務局の協力を得ながら経費をかけずに作成している。現在の当議会のホームページ

での動画の活用は、制作能力やデータ容量の課題もあり制約があると思われるが、市民への訴求力があるので参考にすべきと考える。

また、WEB サイトの運用は、外部にプロポーザル委託しており、委託料は高額だが、発信の迅速化と若い世代に伝えていくことに繋がっているという大きな成果が得られている。そして「2クリックで見たい情報にたどり着く」という考え方は、当議会も含め磐田市全体の参考にしたい。

さらに、広報紙も WEB サイトもユニバーサルデザインにし誰もが見やすいことを目指していたが、これは当議会でも取り組むべきと考える。

Ⅱ 相模原市 人口：715,608 人・面積：328.91 km²（令和 7 年 8 月 1 日現在）

1 広報広聴の取組について

（１）概要

相模原市議会では、議会広報に関する事項は議会運営委員会の部会として置かれた広報会議の所掌事務である。主な内容は、市議会だよりの編集・発行、市議会ホームページ、SNS などであるが、主体的には議会局政策調査課が実施している。

女子美術大学との連携事業に取り組んでおり、平成 27 年度に漫画の製作、平成 28 年度以降は定例会のポスター制作を行っている。議会の情報はフェイスブックやインスタグラムなどの SNS で日々の発信に取り組んでいる。

（２）考察

ホームページにキッズページがあり議会の説明が分かりやすく記載されている。説明文の漢字にふりがなを入れたり、アピールをするなど磐田市で実施する場合は工夫が必要と考えられる。

議会だよりは 1 日発行で市広報と同日である。タブロイド判 8 ページ、横書きで基本は新聞折り込みで配布している。磐田市でも新聞折り込みや市広報との同日発行、若者向けに電子化や高齢者向けにタブロイド判の検討を行いたい。

議会だよりの閲覧状況について 3 年毎に経年変化を分析している。認知度や関心度、関心の有無に関する年代等の傾向も把握することができ、施策の PDCA サイクルに有効であるため磐田市でも検討していきたい。

大学と連携したポスター制作などの取組は、大学・高校など市議会や市政に関心をもってもらうためのきっかけとなると考えられる。

SNS は情報発信だけでなく、コメント受付やアンケート機能などを活用した双方向性のある運用が求められる。若年層との接点を強化するためにはインスタグラムやラインなどの媒体の選定についても検討が必要である。

議場コンサートは傍聴にはつながらないとの結果であったが、「国分寺まつり」において 6 階議場からの展望ツアーを磐田市では実施していることから、議会の広報にもつながる仕掛けが必要と思われる。

実施できるかひとつずつ検討し、事務局の負担を考慮し議会運営委員会との共有が必要である。